

開催地名：広島県熊野町	
開催日時	令和3年12月2日（土） 10:00～11:00
開催場所	熊野町役場3階会議室
語り部	甚野敬司（宮城県大和市）
参加者	約30名
開催経緯	本町は、平成30年7月豪雨により大きな被害が発生したが、災害から3年が経過し、職員の入れ替わりにより、町職員の立場として災害を経験していない者も増えてきた。また、豪雨災害からの復興途中ということもあり、地震に対する備えが十分とはいえない状況である。
内容	<p>(1) 震災時の救助活動</p> <p>震災当時、私は福島市に在住する自衛官だった。発災直後から福島で災害救助にあたり、その2日後に仙台市石巻市へ派遣。人命救助・避難誘導・避難所支援・瓦礫除去・入浴支援などを行った。また、原発事故で危険な区域となった浪江町にも赴き、除染活動・立ち入り禁止地区の搜索・一時帰宅の補助・役場の復旧などを手掛けた。</p> <p>(2) 避難所支援と除染活動について</p> <p>石巻市は津波と火災によりまるで戦場のような光景となっていた。自衛官として受けた命は、重機を使用した人命救助・安置所へのご遺体の移送など多岐にわたる。避難所支援ではつらい避難生活を支えるため、近隣の温泉から源泉を運んで野外風呂を開設。さらにコミュニケーションを深められるよう検温・血圧測定などが出来る場所作りも行った。</p> <p>浪江町の立ち入り禁止区域で除染活動を行う際は防護服が欠かせなかった。汚染された落ち葉や廃土を徹底的に掻き出し地中に埋め、ブラッシングと高圧洗浄を繰り返すことで少しずつ汚染量を和らげていった。途中、一時帰宅者の受け入れと移送も担当。自衛隊、東電や環境庁の職員、地域の除染チームとともに毎日のように現地本部会議を行いながら復旧に全力を注いだ。</p> <p>(3) 大災害に備えておくべきこと</p> <p>震災を経て初めて家族・親戚など身近な人との繋がり大切さに気付かされた。自宅ではある程度備蓄をしていたが、親戚から食料を分けてもらうなど助け合いながら日々をしのいでいたのだ。それを聞いた時、身近な</p>

	<p>者同士で日々災害リスクを想定し、防災について考え、然るべき備えをしていくことは重要であると感じた。そうしておくことで「助けてもらう人」より「助ける人」の数が増え、地域の防災力も自然と上がっていくからだ。また少なくとも職員の立場の者がより多く備えておくことで、有事の際に住民の負担を減らすことも出来るだろう。</p> <div style="text-align: center;"> <h2>今を生きる 責任</h2> <p>災害伝承 10年プロジェクト</p> <p>2021.12.2 基野 敬司</p> </div> 
開催地より	<p>講演を聞いて、災害から地域を守るためにはまず大切な家族やパートナーを守れるようにならないといけないと感じた。自分ひとりで災害の意識を高めるのではなく、周りと一緒に考え、備えることを大切にしていきたい。</p>